

令和 6 年度 重点目標

部署：教務部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力アップを図るために授業の質を向上させる	PDCAに基づく授業改善を行う (PLAN) 指導目標の設定 年間指導計画の作成 生徒の実態把握 (DO) 「考えさせる」学習過程の工夫 体験的な学習や問題解決的な学習の工夫 情報機器の効率使用 個に応じた指導の充実 (CHECK) 学習評価の工夫改善 授業評価の実施 授業公開の実施 (ACTION) 成果や課題の分析 指導改善計画の作成	学習評価を指導改善につながるものにする 授業評価による振り返りをする 公開授業、教科内での交流、学校全体での交流の場を持つなど、知識や経験、課題意識などを共有する機会を増やす 情報機器の活用状況	授業評価や観点別学習状況の評価を活用した振り返り、公開授業の実施などを通して、授業方法の改善・工夫に継続的に取り組んだ。 iPad活用の授業は定着し、観点別評価につながる授業展開ができている。 学力向上に向けて、生徒および教員対象にアンケート調査を実施し、その集計結果を分析。課題を明確化し、学力向上委員会を立ち上げ、今後の具体的な取り組みについて協議した。
観点別学習評価方法を定着させる	単元ごとや授業ごとの評価方法を研究し、考査問題に反映させる ルーブリックを作成し、共通理解の上で正しく評価できるようにする 3学年の学年末考査を実施せず、3学期は各教科で工夫した授業展開をする	観点別評価方法の定着状況 生徒が積極的に授業に取り組む姿勢を持たせるための授業を実施	iPad活用してのグループ学習や発表など、観点別評価に資する授業展開を推進した。 R6年度より3学年の学年末考査を廃止し、各教科で高校生活の集大成となる取り組みを実施した。
校務支援システム(BLEND)の導入により効率化を図る	円滑な運用ができるよう対応する	BLENDの活用を強化 きめ細かい指導を実現する	BLENDの活用も定着してきており、出欠状況や成績などスムーズに確認でき、生徒指導にも有効に機能している。
キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う	日々の授業やHR活動、部活動や学校行事、またキャリアパスポートを通して次の能力を育む ○人間関係形成・社会形成能力 ○自己理解・自己管理能力 ○課題対応能力 ○キャリアプランニング能力	キャリアパスポートの活用状況 課外活動などの参加状況	「キャリアパスポート」の取り組みを通じて、生徒が自己理解を深め、将来の目標を具体的に描くことができるよう支援した。これにより、生徒の主体的な進路選択や学習意欲の向上にもつながっている。

令和6年度 重点目標

部署：入試広報部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1)入学者数の目標達成 目標を達成するために以下に示す各項目での目標達成を目指す	受験者および入学者の確保については、入試広報部だけでなく、学園全体での取り組みが不可欠である (a)教育内容 ・生徒の満足度や活動実績、進路、評判等による本校への評価 (b)宣伝広告 ・HPやSNS等のデジタル媒体および紙媒体による本校教育内容の発信およびブランディング (c)訪問活動 ・中学校や塾への情報提供および信頼関係の構築 (d)オープンスクール ・中学生、保護者両方が満足する内容の提供 (e)保護者対応 ・保護者の不安を取り除き、本校への興味、関心を高める (f)入試条件 ・可否の目安や奨励金制度等 上記項目の中で、入試広報部が深くかかわる(c)訪問活動および(e)保護者対応に注力する。また、企画広報が主体となる(b)宣伝広告および(d)オープンスクールについては連携を図り、質の向上を目指す	入学者数 300名 (前年度199名) 専願者数 270名 (前年度193名) 受験者数 550名 (前年度457名) ※前年度・R6.3.4時点 中国12名除く	入学者数 235名 ※1次+1.5次入試+併願戻り (前年度232名) 専願者数 204名 ※1次+1.5次入試 (前年度193名) 受験者数 420名 ※1次+1.5次入試 (前年度457名) ※R7留学生 6名除く 前年度R6留学生12名除く
(1-1)本校へのアクセス増 ・問い合わせ ・資料請求 ・オープンスクール(OS) ・外部説明会 ・Web広告	本校へのアクセスを増加させるための活動を行う (a)訪問活動の強化 ・本校の認知のみならず、中学生に勧めたくなるような情報発信を行う。また、本校在校生や卒業生に関する報告や成功した生徒の具体エピソードを伝えることを心がける (b)HPの有効活用 ・単なる情報発信に終わらない、ブランディングを強く意識したHPの改変を行う (c)Web広告の導入で認知度を高める	OS参加者数 1,600名 (今年度1,346名)	R6年度OS参加者数 1,472名 (R5年度 1,346名)
(1-2)専願生の増加	常に現状を分析するとともに併願から専願への対策を行う 途中経過として、OSでのアンケートをもとに、専願者および受験者の見込み数を把握していく	専願者数 270名 (今年度193名)	専願者数 204名 (1次+1.5次入試)
(2)部内システムの構築	継続的に望ましい結果を得るために、個人の力量に頼るだけでなく、入試広報部として情報共有してシステムを構築する 訪問情報、中学生情報、成功事例、課題等の検討および共有化	左記項目が実施できたかどうかの確認	概ねできた

令和 6 年度 重点目標

部署：進路指導部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 基礎学力の向上と定着	・教務部、各教科と連携して、ベネッセ教材での成績向上を目指す。 ・終礼トレーニングを継続し、総合型及び学校推薦型選抜につながる取り組みとする。	・スタディサポート、進路マップでの成績結果 ・終礼トレーニングでの実施内容	スタディサポート ・2年第2回 国数英R5→R6[D1→C3] ・2年数学 第1回→第2回[D1→C2] ・2年国語 全国平均を上回る ・1年国数英 第1回→第2回[C3→D1]
2. 進路決定に向けたサポートの充実	・特別進学コースでS-KB80を中心とした組織的指導の確立を目指す。 ・総合型選抜及び推薦型選抜での合格を目指した指導を行う。 ・チュートリアル制度の運用と活用により幅広い進路実現を目指す。	・大学入試に対する合格数 「一般選抜」での国公立大学と難関私立大学の合格数と「総合型選抜」及び「推薦型選抜」の合格数 ・S-KB80のシステム化と活用 ・総合型選抜及び推薦型選抜に向けた取り組み	・大学合格数 奈良女子・関西・立命館・龍谷・甲南他、合計数179(一般54・総合型43・指定校推薦38・公募推薦他等44) ・S-KB80システム…授業を中心に各テストと連動して活用できた。 ・難関私大へのチャレンジが見られ関西大学へ1名合格した。
3. 自己理解・社会理解を通して、進路意識の高揚と希望進路の確立	・自己理解への取り組みを通して、ライフプランニングに繋げることを図る。 ・学問や職業紹介媒体を通して社会への理解を広げて、進路希望に繋げる。	・自己理解、社会理解に繋げる講演会やガイダンスの実施 ・進路希望調査の回答状況	・事前指導を行い、「校内模擬面接」を実施した。 ・大手前大学(瀬口先生)、神戸学院大学(岡崎先生)を招いて、「自己理解」「社会理解」を目的とした「講演会」を実施した。 ・進路希望調査集計(2年:%) …大学51・短大8・専門26・就職8・他9
4. キャリアサポートの充実	・進路先研究の機会を通して、ミスマッチのない進路選択と決定を目指す。	・進路決定に向けた授業やガイダンスの実施 ・協定校等を活用した連携授業や体験会などの実施 ・進路決定状況	・17大学を招いて「大学模擬授業」を実施した。 ・進路ガイダンス(志望理由:講演会)に基づき、志望理由作成とその指導・添削を実施した。 - 進路決定率91.2%(大学41.9・短大11.2・専門28.8・就職9.2)

令和6年度 重点目標

部署：生徒指導部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
自立した社会に貢献できる女性を育てる 1.基礎学力の向上 2.女性としての教養とマナー	ヴィジョン「自由闊達にして愉快なる理想の学園」のもと、教員が行動基準「それは生徒のためになるのか」を指導の原則として生徒指導を行う。 《生徒指導の柱 四原則》 ・良識と常識を持って、指導する ・尊厳(人権意識)を大切にする。 ・社会性と道徳をもって、判断する。 ・自立と主体性を育む。	生徒が自主的に「時(社会的状況)、場所(地域情報)、場合(生活様式)」を意識した行動ができるようになること。そして、全教員が主体的に「ふさわしい声掛け」ができるような学園になること。 生徒用振り返りシートを作成し、1年間の学校生活をチェックする。 《振り返りの項目》 ・挨拶・礼儀を意識している(90%) ・態度・身嗜を意識している(90%) ・時間・約束厳守を意識している(90%) ・整理整頓清潔清掃を意識している(90%) ・授業に積極的参加した(90%)	「自由闊達にして愉快なる理想の学園建設」というテーマを意識した1年間となった。 今後も常識に照らしながら、納得のいく指導ができるよう改善していく一方、方針・目標が見えてきた。 《振り返り結果》 回答数…1年188・2年240 ・挨拶・礼儀 …95.3%(408名) ・態度・身嗜み …96.0%(411名) ・時間・約束 …92.8%(397名) ・4S …88.6%(379名) ・授業・成績 …91.8%(393名)
意欲的な行動 個別の事情を抱え、登校できない生徒への対応	担任・学年からの報告を受けてケース会議を開き、方針を決定する。場合によっては教務部と連携し、サポート制度の検討も行う。	登校できずに進級の条件を満たさない状況に陥る生徒を救済する。 学校が楽しいと感じている生徒 80%	《学校が楽しいと感じている生徒 R6.9実施》 1年…92.0% 2年…85.6% 3年…78.5% 《ケース会議(個別事情を抱える生徒の会議)》 22回実施(15名)→3年3名 2年2名が異動。本年度はサポート制度から10名が卒業。
いじめに対する対応	早期に発見し、いじめ対応に関する学校の体制に基づいて対応して、解決をはかる。 いじめに関するアンケートを6月と9月の2回実施する。	いじめの事案が発生した場合、いじめ問題対応マニュアルに基づき、双方納得ゆく解決を迅速に行う。	2回のいじめに関するアンケートでは、数名の生徒から「いじめ」に関する回答があり、学年・担任の先生を中心に聴き取りを行ったが、「いじめ」に至る報告はなかった。学年・担任の聴き取りは迅速に行われた。(体罰に関する報告は0件)
SNSなどによるトラブルの防止(前年度5件発生)	学年集会(4月)や各HR活動で、具体的事例をあげて生徒に考えさせて指導する。	SNSTラブル発生防止の取り組みを進めるが、発生した場合は迅速に解決する。	毎年、全学年でSNSトラブルについて集会を行っており、本年度はSNSトラブルの発生はなかった。 今後もiPadの活用も含めて、SNSトラブルの学習会を継続する。 (問題発生件数は15件)
感染症対策	朝礼時に担任が生徒一人ひとりの健康観察を実施し健康観察表へ記録する。 感染予防として校内の衛生環境を整える。 保健委員を通じて、健康に関する情報を伝達する。 BLEND 保健室管理の活用にて情報の確認。	朝礼時、担任が生徒一人ひとりの健康チェックを行い保健室と体調不良生徒の情報共有をする。	新型コロナ感染症 84名 インフルエンザ感染 53名 (2月現在累計) ハンカチ所持率 74%(10月)→71%(1月) 保健だよりの発行、保健委員会のもと手洗い、換気の励行とポスター作成・掲示を全クラスで実施 学級閉鎖がなく、感染症拡大防止の成果が見られた。

令和6年度 重点目標

部署：生徒会指導部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
明華祭の活性化 「楽しい、待ち遠しい、誇れるイベントに」 1. 生徒の主体性を活かしながら、より完成度の高い作品、公演の制作、発表を通して、充実感、達成感を感じさせる 2. 本校のアイデンティティとなる行事にする	1. 制作、練習が計画通り進んでいるか、進捗状況を度々確認をする 1. クラス、部活動との打合せ等を密にして、1日目の公演の更なる充実を図る 2. 密な打合せ等を通して「全ての参加クラス、部活動が自分の作品の発表だけにとどまらず、2日間の‘明華祭’を制作する」という意識向上を図る	2, 3. 来場者、生徒アンケート結果	昨年度に比べて少しレベルアップしたように感じるが、来年度は更に完成度の高い内容になるようにサポートしていきたい。 アルカニックホールの来場者アンケートでは100%の好評を得た。
体育祭の活性化 「楽しい、待ち遠しい、誇れるイベントに」 1. 1日楽しくスポーツに親しむことで友人との親睦を図り、連帯感を感じさせる 2. パフォーマンスの発表ではなく、積極的に参加させることに重点を置く	1. クラス対抗、学年対抗の団体競技を通じて団結力を強め、帰属意識、連帯感を感じさせる 2. 運動が苦手な生徒でも楽しく参加できる種目を実施する	1. 生徒アンケート結果 2. 出欠調査	生徒アンケートで好評が96%であった。
生徒主体の行事を増やし学校生活の充実を図る 委員会の招集を増やし、生徒が主体的に考える機会を増やす	希望者対象の行事を含めて新しい行事を増やし、好評であれば来年度も継続する Koubun Voice等を通じて、日々の清掃の必要性、古紙回収をはじめとする本校のエコ活動の意義、芝のメンテナンス等の緑化活動の意味などを委員会活動を通して生徒、教員に対する啓蒙活動の実施	1. 参加人数、感想等 2. Koubun Voiceの発行数 2. 委員会の開催数	「ウォーターバトル大会」や「チョコレートクッキー制作体験」などの行事を生徒会の生徒が企画、実施し、好評を得た。 季節に応じた内容を記載し、教室に掲示してもらった。発行部数10部
部活動のあり方について検討する	部活動の地域活動への移行など、これからの部活動のあり方について検討する		現状維持 弓道部、少林寺拳法部、ゴルフ部が全国大会出場

令和7年度 好文学園女子高等学校 学校評価

1. 目指す学校像

教育方針

- ◇ 自立した社会に貢献できる女性の育成
- ◇ 基礎学力の向上と女性としてのマナーと教養の習得
- ◇ 「個性創造」(基礎基本を身に着けたうえで花開く独創性)
- ◇ 「やればできるは魔法の言葉 自分サイズの未来を拓く
チャンスメーカー好文学園」

目指す学校像

自由闊達にして愉快なる学園（主体性とセンスを育てる）

2. 中期的目標（創立90周年に向けて）

- ① 学力向上に向けた効果的なシステムの構築
- ② 3年間の一貫性ある進路指導スキームの構築
- ③ 総合選抜型入試対策として小論文指導体制の確立
- ④ 各コースの更なる強化とアドバンス、フロンティアの内容充実化
- ⑤ 新感覚のライブラリー&レストラン with グリーン構想
- ⑥ サポート制度の整備拡充
- ⑦ ホームページ、InstagramなどSNSを通じた学校情報発信の拡充

以上

令和 7 年度 重点目標

部署:教務部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
授業の質の向上	・教科内での公開授業を実施し研究する ・教員同士の協力や情報共有を進める ・ICTを活用して生徒が積極的に学べる環境を整える ・評価基準を明確にし、どのように取り組むのかわかりやすく伝える ・授業評価を実施する	・教科内研究の進捗 ・ICT活用状況 ・生徒の学習評価 ・授業評価	
基礎学力の定着	・朝礼時の朝読書の強化 ・定期的に作文トレーニングを実施 ・終礼時の学習トレーニングとして、Classiを利用し、個別レベルに合わせて実施 ・放課後の自習、学習会を促進	・読書量 ・作文の成長度 ・Classiの記録 ・スタディーサポートの結果	
生徒の学習意欲の向上	・授業内で学習の動機付けを強化 ・放課後の自習、学習会を促進 ・Classi利用で、その日の授業の振り返りができるように課題配信 ・学習成果を評価し、フィードバックを通じて自信を持たせる	・放課後の自習、学習会への参加人数 ・Classiの記録	
観点別評価方法の改善	・評価基準を明確にし、どのように取り組むのかわかりやすく伝える ・評価のための取り組みではなく、学力向上のための取り組みとなるように計画的に実施	・生徒の学習評価 ・生徒の取り組む姿勢	
主体性を育てる	・生徒に校外学習の企画をさせる ・部活動間の交流を行う ・土曜講座などで、複数教科にまたがる探究的な取り組みを行う	・生徒の取り組む姿勢 ・事後評価	

令和 7 年度 重点目標

部署:入試広報部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1)入学者数の目標達成 目標を達成するために以下に示す各項目での目標達成を目指す	・受験者および入学者の確保については、入試広報部だけでなく、学園全体での取り組みが不可欠である ・企画広報が主体となる、宣伝広告およびオープンスクールについては密に連携を図り、質の向上を目指す		
(1-1)効果的な訪問活動 ・訪問計画 ・オープンスクール(OS) ・外部説明会	本校へのアクセスを増加させるための活動を行う(効果的な訪問活動) ・訪問回数を均一的に増やすのではなく、計画的(地理、沿線等を加味した)な訪問活動を行う ・オープンスクール(OS)、外部説明会等でわかりやすい説明を心がける		
(1-2)効果的な情報発信 ・本校在校生や卒業生の情報 ・SNSの有効利用	・本校の認知のみならず、本校在校生や卒業生に関する情報を具体的に伝える ・SNSの有効活用 単なる情報発信に終わらずブランディングを強く意識したHPの改変を行う、またインスタグラムの導入で認知度を高める		
(2-1)部内システムの構築	継続的に望ましく安定した結果を得るために、個人の力量に頼るだけでなく、入試広報部として情報共有するシステムを構築する		
(2-2)部内システムの構築	定期的に部会を開き、訪問情報、中学生情報、成功事例、課題等の検討および共有化をはかり、外部よりの質問に対し部員誰もが回答できる体制を構築する		

令和 7 年度 重点目標

部署:進路指導部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
3年間の一貫性ある進路指導スキームの構築	これまでの進路指導実践に基づき、計画的・系統的な進路指導プログラムをまとめる。特に1・2年では「自己理解」と「社会理解」の発展を目指して、講演会・ガイダンス・模擬面接・大学模擬授業を実施する。協定大学との連携を中心に、取り組みを計画して実践する。	3年間の進路指導計画の提示と実践	
総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試(指定校以外)の活用	多様な総合型選抜や学校推薦型選抜の制度を活用した進路指導を行い、生徒の諸活動を活かして目指す大学の幅を広げる。講演会・ガイダンスを通して情報提供や意識付けを行う。志望理由・面接対策を実施する。	指定校推薦枠のない学校への進路希望者数と進学者数	
小論文指導体制の確立	国語科の授業において実施する小論文指導を基礎におき、特に受験対策(3年次)として指導する計画をまとめる。進路指導担当者・学級担任・第3学年が連携して、業者添削等も活用して対策を行う。	進路指導担当者・学級担任・第3学年が連携して、業者添削等も活用して行う対策の計画の提示と実践	
学力向上に向けた効果的なシステムの構築	オンライン教材等を活用して、学習意識の向上・学習機会の増加・学習管理の強化につなげる。特にテスト教材と連携した活用やチュートリアル制度で活用する。	オンライン教材導入と、導入後の具体的な活用計画や学習計画の提示と実践	

令和 7 年度 重点目標

部署:生徒指導部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
自由闊達にして愉快なる学園の実現Ⅰ 自主的に「時(社会的状況)、場所(地域情報)、場合(生活様式)」を意識した行動がとれるようになること	KBJ48を全員で活用し感性を育てる。 良識と常識を持って、指導する。 尊厳(人権意識)を大切にする。 社会性と道徳をもって、判断する。 自立と主体性を育む。	振り返りアンケートを実施する(目標) KBJについて(取組85%) 諸規定について(遵守90%) 学校生活の楽しさ(目標85%) 長欠生徒の減少(10%未満)	
自由闊達にして愉快なる学園の実現Ⅱ 諸規定の整備	身嗜み(着こなし・頭髮・その他)、 アルバイト等の内容について最適化を すすめる。	「ルールがあるから守る人」になること ではなく「自分の判断で良識・常識に あった 判断と行動ができる人」が目標	
いじめに対する対応	いじめに関するアンケートを6月と9月の 2回実施する。 早期に発見し、いじめ対応に関する 学校の体制に基づいて対応して、 解決をはかる。	いじめの事案が発生した場合、いじめ 問題対応マニュアルに基づき、双方 納得ゆく解決を迅速に行う。	
SNSなどによるトラブルの防止 (R6年度0件発生)	学年集会(4月)や各HR活動で、 具体的 事例をあげて生徒に 考えさせて指導する。	SNSTrouble発生防止の取り組みを 進めるが、発生した場合は迅速に 解決する。	
健康教育に関する取組 衛生環境の整備と感染症予防	教室環境のチェック(温度・換気) 保健だよりの発行(年10回) 保健員会活動の推進(啓発活動) 部活動への注意喚起(熱中症・感染症) 保健室と生活指導で情報共有	欠席や出席停止の増加を防ぐ 長欠生徒(30日欠席)の減少 学級閉鎖・休校の阻止	

令和7年度 重点目標

部署:生徒会指導部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
明華祭の活性化と質の向上 ・生徒の主体性を生かしながら、より完成度の高い作品を制作することで充実感、達成感を感じさせる。 ・本校にしかない行事にする。	・各クラス、部活動との打合せ等を密にして、進捗状況の確認と作品の質の向上に務める。	来場者、生徒アンケート結果	
体育祭の成功 「生徒がクラスメイトとともに体を動かすことを通して、楽しく過ごす1日」という本校の体育祭が定着している。その体育祭の成功を目指す。	・団体競技を通じて、クラス、学年の団結力連帯感を感じさせる。 ・運動が苦手な生徒も楽しく参加できる種目を実施する。	・生徒アンケート結果 ・当日の出欠状況の確認	
・生徒主体の行事を多く実施し、学校生活がより楽しく、充実したものになるように務める。 ・生徒が主体的に運営する委員会活動を目指す。	・生徒会執行部の生徒が、行事を企画、運営し、一般の生徒に楽しい時間を過ごしてもらおう。(過去の一例:射的大会、ウォーターバトルなど) ・委員会の取り組み内容や運営方法などを生徒に考えさせて、主体的な委員会活動を目指す。	・参加生徒のアンケート結果 ・行事の実施回数	
オープンスクールの充実 全校あげての取り組みとし、参加者の増加を目指す。	・本校の魅力を、より多くの人にってもらう内容と、コース体験を通して、コースの魅力を知ってもらう内容にする。 ・生徒と教員の距離感が伝わるよう、生徒主体のオープンスクールを実施する。	参加者数	
・令和8年度以降の文化祭について検討する。 ・令和8年度、9年度体育祭について検討する。	・明華祭を継続するしない、全く新しい考え方で文化祭にするのか、を含めて検討する。 ・場所を変えて内容を変えないで実施にするのか、全く新しい体育祭にするのか、を検討する。 - 生徒会だけでなく、全校あげて検討する。		